

雇用政策研究会（第2回）

日本家計パネル調査・COVID-19特別調査 でみる就業・ウェルビーイング等の変化

2020年11月16日

山本勲

慶應義塾大学商学部

調査概要

1. 日本家計パネル調査 (JHPS)

➤ 概要

- ✓ 全国から無作為抽出された個人が対象（配偶者情報も調査）
 - ・ KHPSサンプル=20-69歳、JHPSサンプル=20歳以上
- ✓ 追跡調査開始時点と標本数
 - ・ KHPS: 2004年(N=4003),07年(N=1419),12年(N=1012)
 - ・ JHPS: 2009年(N=4022)
 - ・ JHPS/KHPS共通：2019年(N=2203) ※2014年に統合
- ✓ 毎年1月時点で留置訪問調査方法にて調査を実施
- ✓ 世帯構成、就学、就業、所得、健康、資産、幸福感などを調査

➤ 2020年調査

- ✓ 実査時期：2020年2月頃
- ✓ 回収数：5470

2. COVID19特別調査 (JHPS-COVID19)

➤ 概要

- ✓ JHPS2020の回答者(5470人)を対象とした郵送調査
- ✓ 第1回調査：2020年5月下旬から6月上旬に実施
 - ・回収数：3891（回答率=70.1%）
 - ・新型コロナウイルス感染症の予防行動、就業・生活・健康・教育・政策への評価などを調査
- ✓ 第2回調査：2020年10～11月実施 ※第3回調査も検討中

➤ 特徴

- ✓ JHPS2020（2月頃）と紐付けることで、（回顧情報ではなく）各時点で計測した同一人物のコロナ前後の変化を正確に比較可能
- ✓ 世界11ヶ国（主にCNEF参加国）の家計パネル調査で共通項目を盛り込んだ国際共同プロジェクトとして実施しているため、国際比較が可能

就業・ウェルビーイング等の変化

1. 利用データ

➤ JHPS2020+JHPS-COVID19特別調査

- ✓ 対象：雇用者=2103サンプル
- ✓ 集計方法：『労働力調査』の性別・年齢層（5歳刻み）・雇用形態（正規・非正規雇用）をもとにウエイトを作成し、母集団推計

	N	Non-weighted	Weighted	労働力調査
男性	1,042	49.55	55.1	55.1
女性	1,061	50.45	44.9	44.9
20～24歳	70	3.33	7.9	7.9
25～34歳	257	12.22	18.0	18.0
35～44歳	463	22.02	21.3	21.3
45～54歳	567	26.96	25.0	25.0
55～64歳	475	22.59	17.4	17.4
65歳以上	271	12.89	10.4	10.4
正規	1,216	57.82	66.1	66.1
非正規	887	42.18	33.9	33.9

2. 分析内容

▶ 就業や生活、ウェルビーイングなどの変化

- ✓ 就業関係：失職・休職・休業・転職意向・収入・労働時間・在宅勤務の主観的生産性
- ✓ 生活時間関係：家事時間・育児時間・睡眠時間・学習時間
- ✓ ウェルビーイング関係：健康感・K6（メンタルヘルス）・UWES3（ワークエンゲイジメント）・HPQ（主観的生産性）・満足度・幸福感
- ✓ 属性：年齢層・性別・雇用形態・職種・業種・企業規模・地域（特定警戒地域・非特定警戒地域）

▶ 男女間格差の要因分解

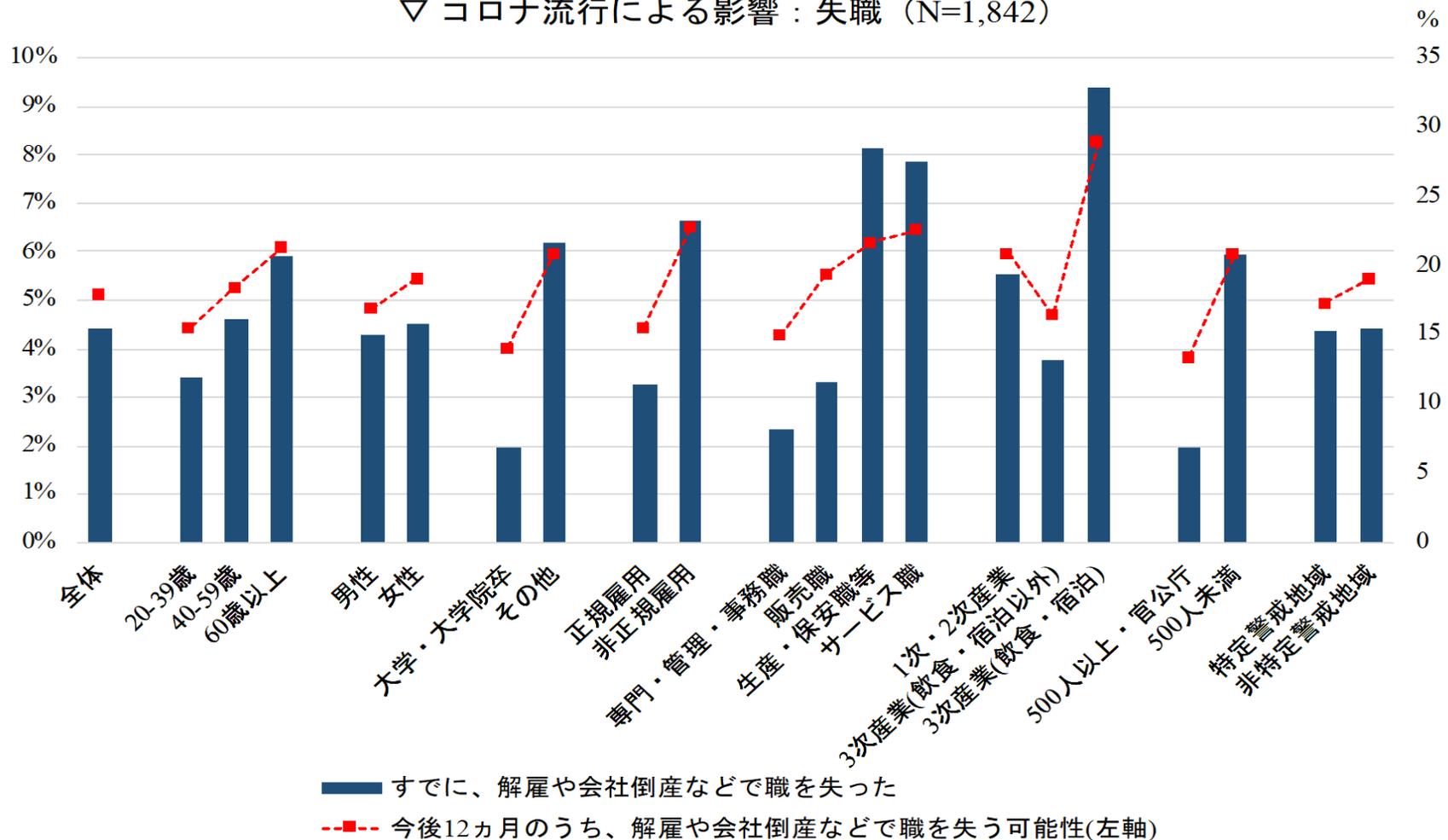
▶ 企業規模間格差の要因分解

※ 石井加代子・樋口美雄・山本勲「新型コロナウイルス感染症の就業・ウェルビーイングへの影響：JHPS特別調査を用いた検証」として論文化する予定（現時点での引用はご遠慮下さい）

3. 暫定結果①

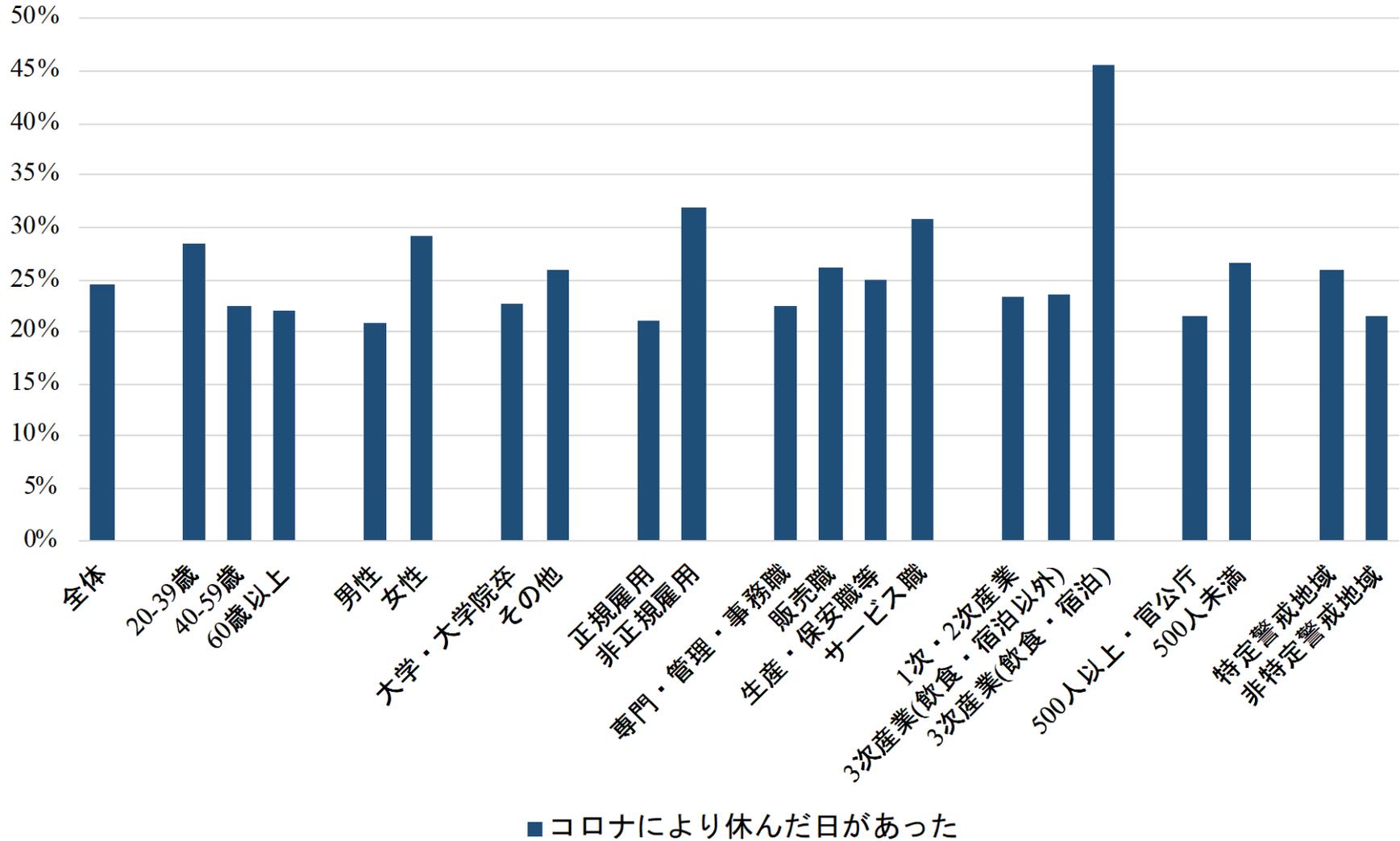
(1) 就業への影響

▽ コロナ流行による影響：失職（N=1,842）



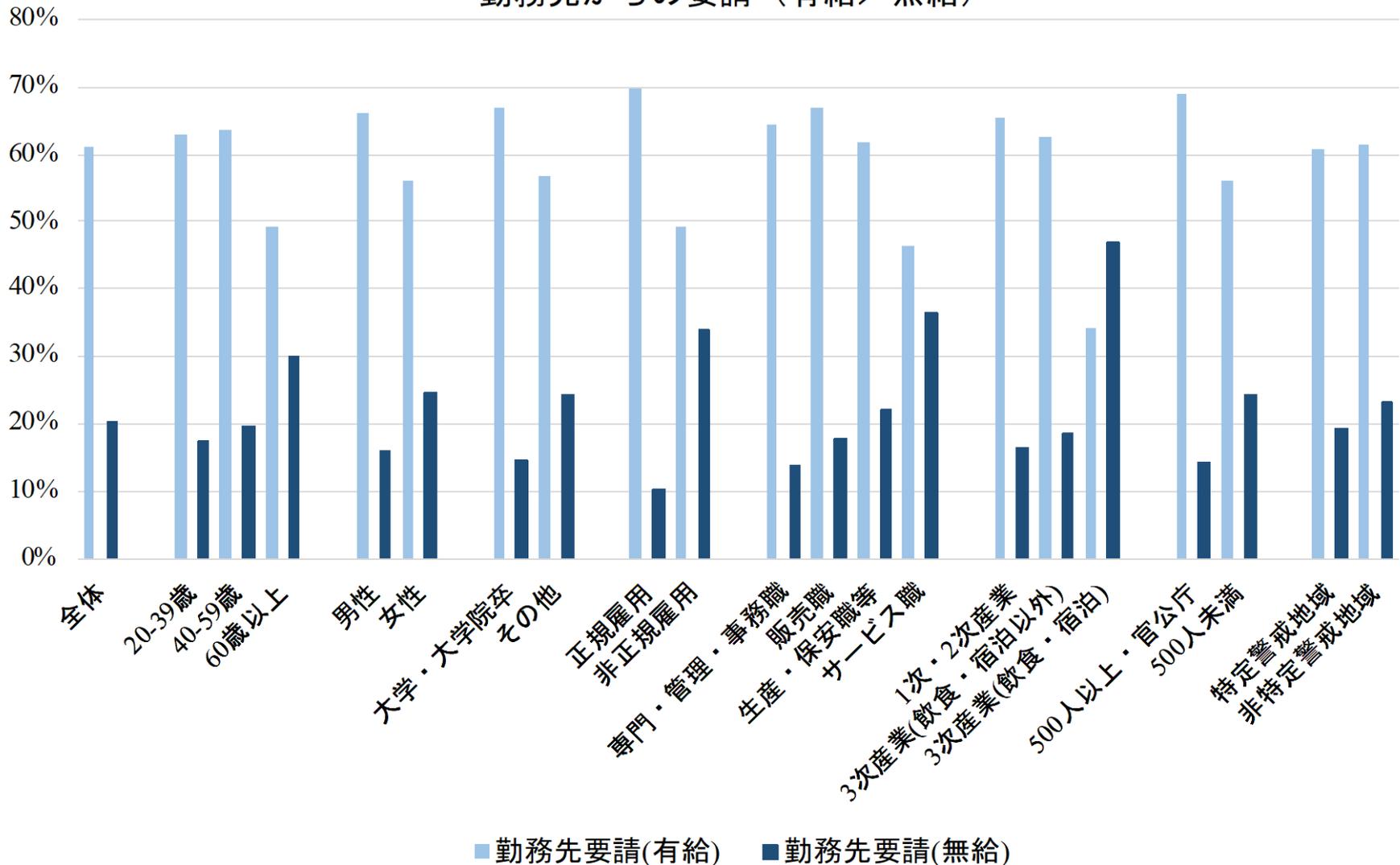
→ 失職は、60歳以上、女性、大卒以外、非正規雇用、生産・サービス職、飲食・宿泊業、中小企業で多い（今後の見通しも同様）

▽ コロナによる休職 (N=1,746)
(休んだ日があった=1)



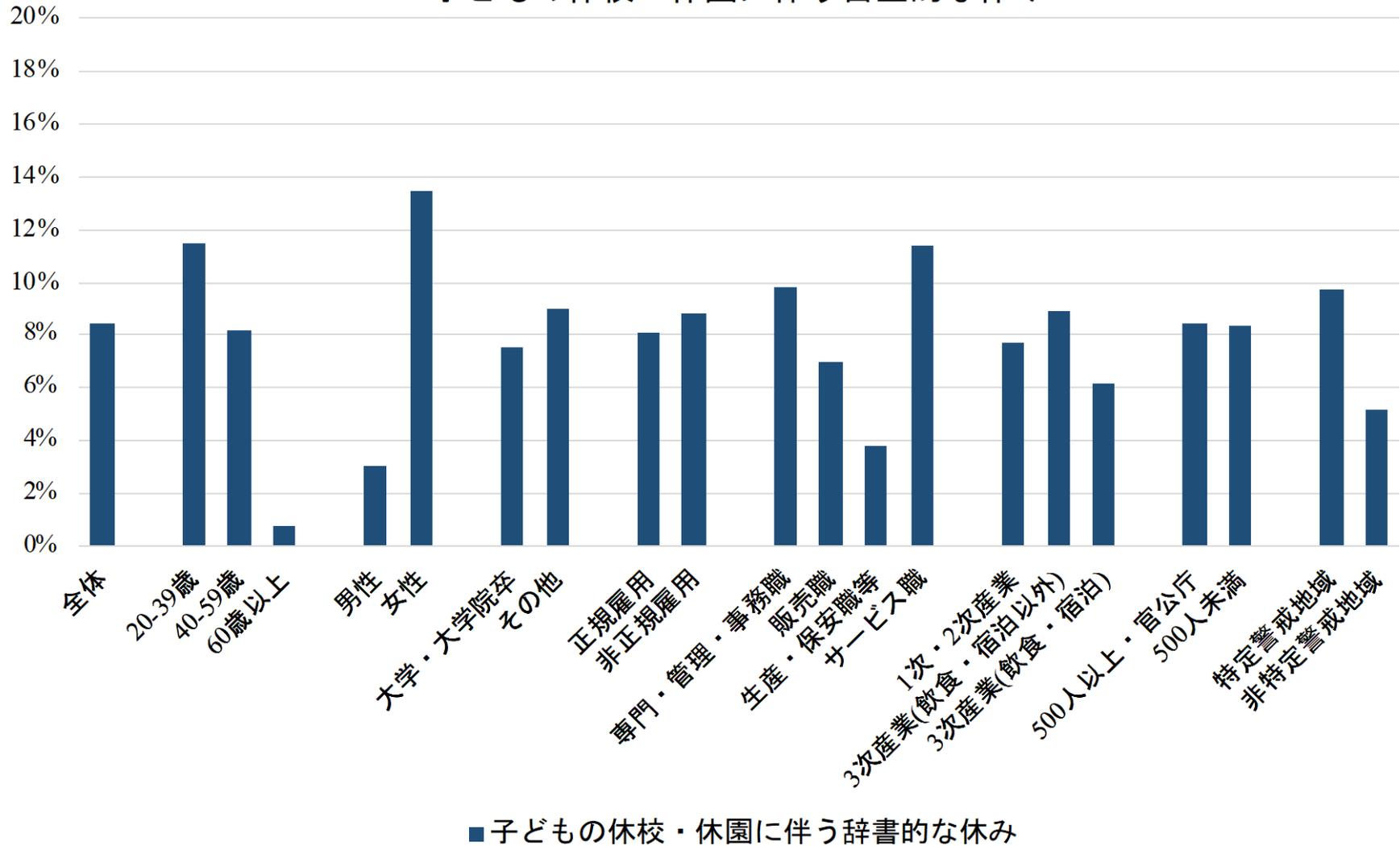
→ 休職は、20・30歳代、女性、大卒以外、非正規雇用、サービス職、飲食・宿泊業、中小企業、特定警戒地域で多い

▽ コロナによる休職の理由 (N=607) 勤務先からの要請 (有給／無給)



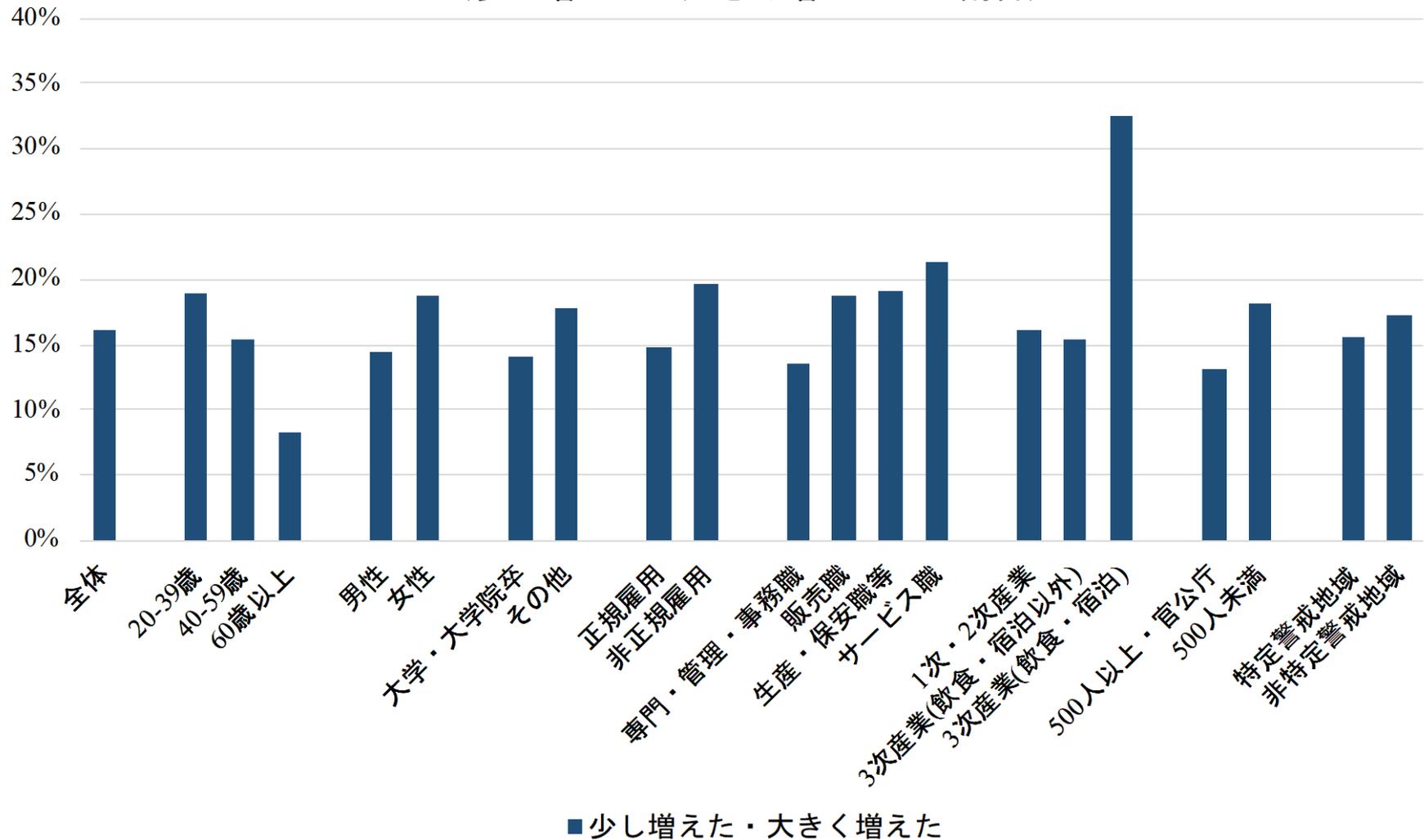
- 勤務先の要請で休職した場合は有給のケースが多いが、無給のケースも2割程度ある
- 無給での休職は、60歳以上、女性、大卒以外、非正規雇用、サービス職、飲食・宿泊業、中小企業、非特定警戒地域で多い

▽ コロナによる休職の理由 (N=607) 子どもの休校・休園に伴う自主的な休み

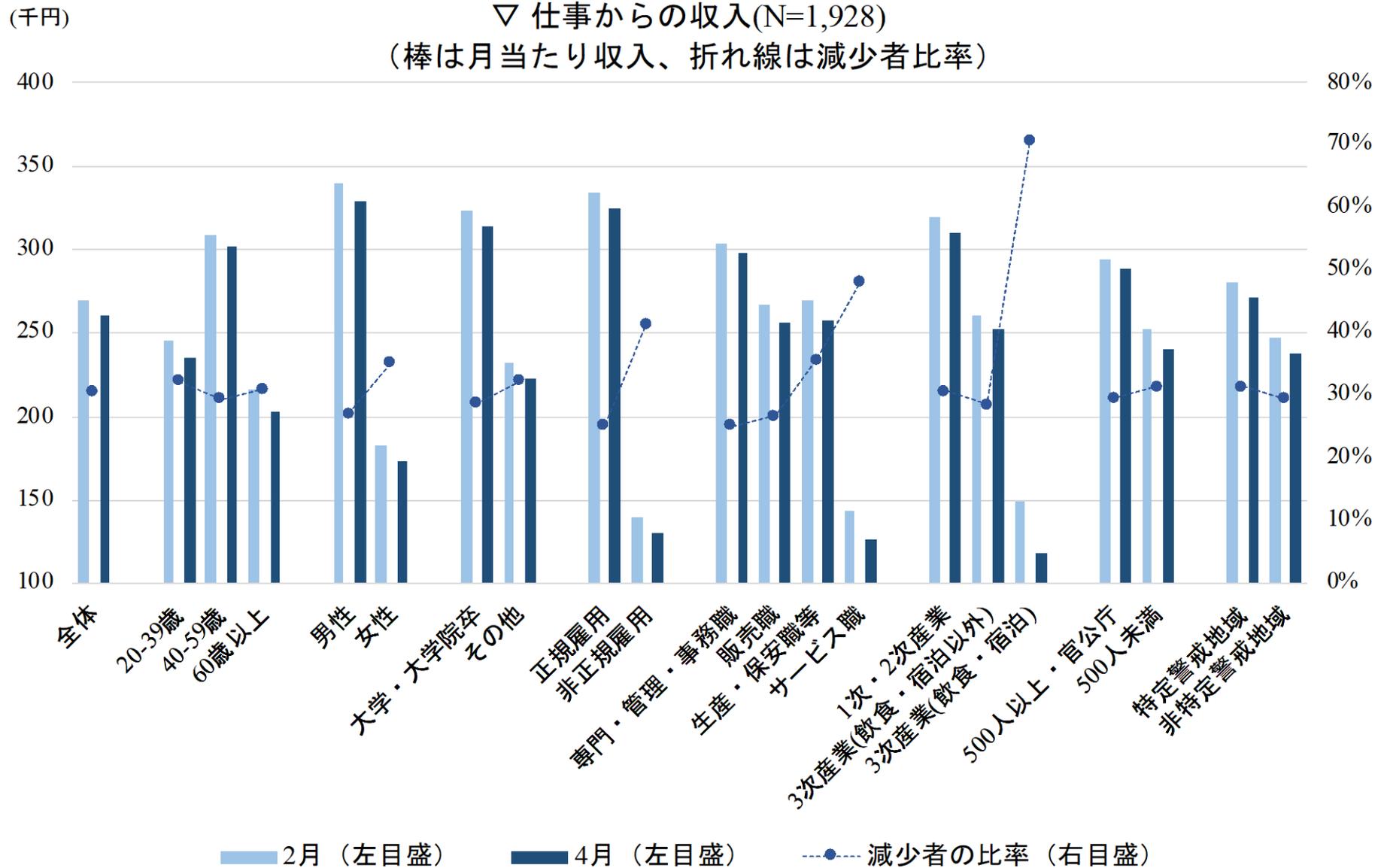


→ 子どもの休校・休園による休職は、女性、大卒以外、専門・管理・事務職、サービス職、特定警戒地域で多い

▽ 他の企業などへの転職希望の変化(N=1,133)
(少し増えた・大きく増えた人の割合)

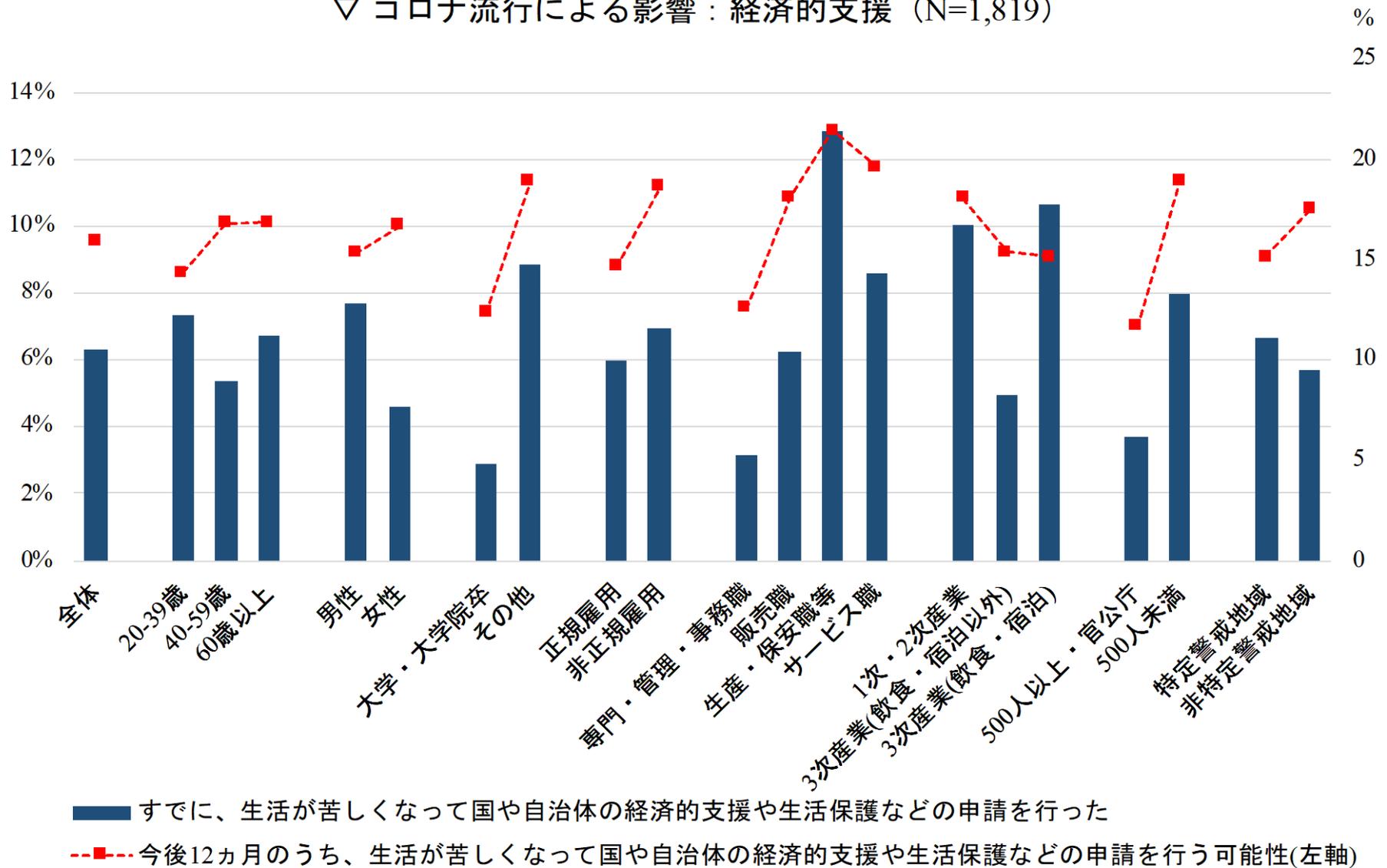


→ 約15%程度の人で転職希望が増加。特に、20・30歳代、女性、大卒以外、非正規雇用、専門・管理・事務職以外、飲食・宿泊業、中小企業で多い



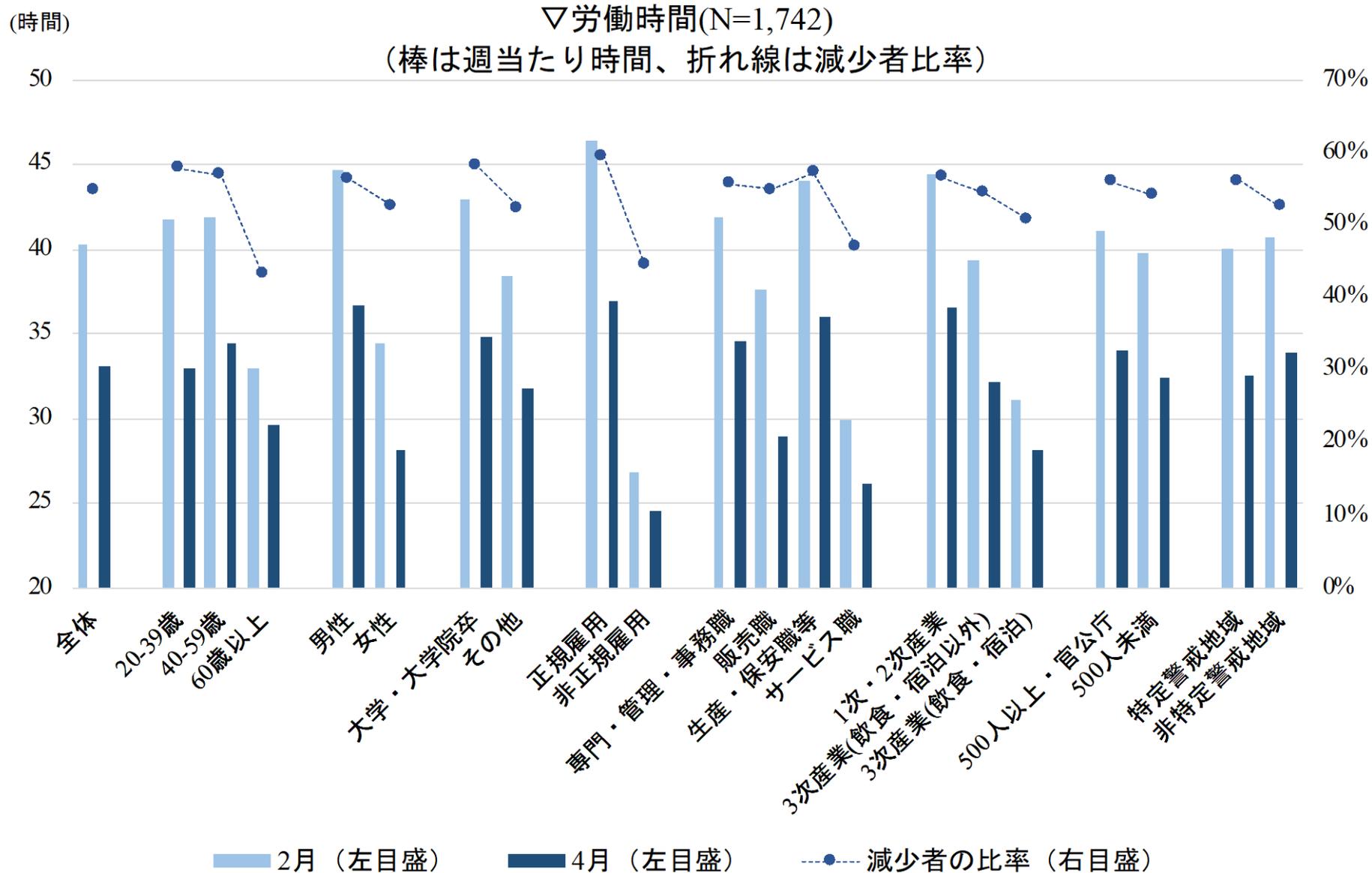
→ 仕事からの収入が減少した人は、女性、大卒以外、非正規雇用、生産・保安職、サービス職、飲食・宿泊業で多い

▽ コロナ流行による影響：経済的支援 (N=1,819)



→ 経済的支援の申請は調査時点で6%程度で、将来的に10%程度になる見通し

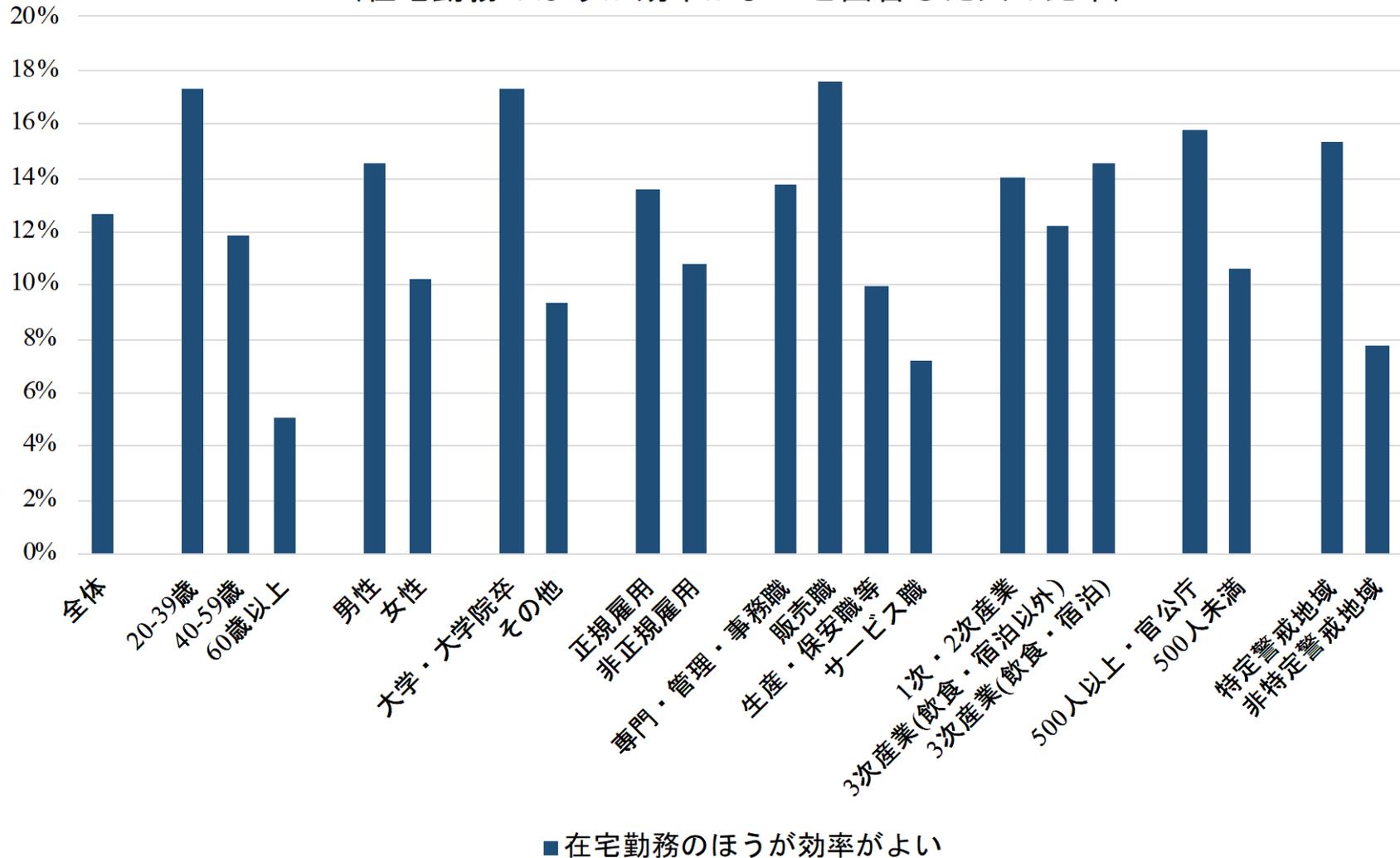
→ 調査時点での経済的支援の申請は、男性、大卒以外、非正規雇用、生産・保安職、サービス職、1・2次産業、飲食・宿泊業が多い



→ 労働時間の減少幅は週7時間程度と大きく、減少した人の比率も55%と半数を超える

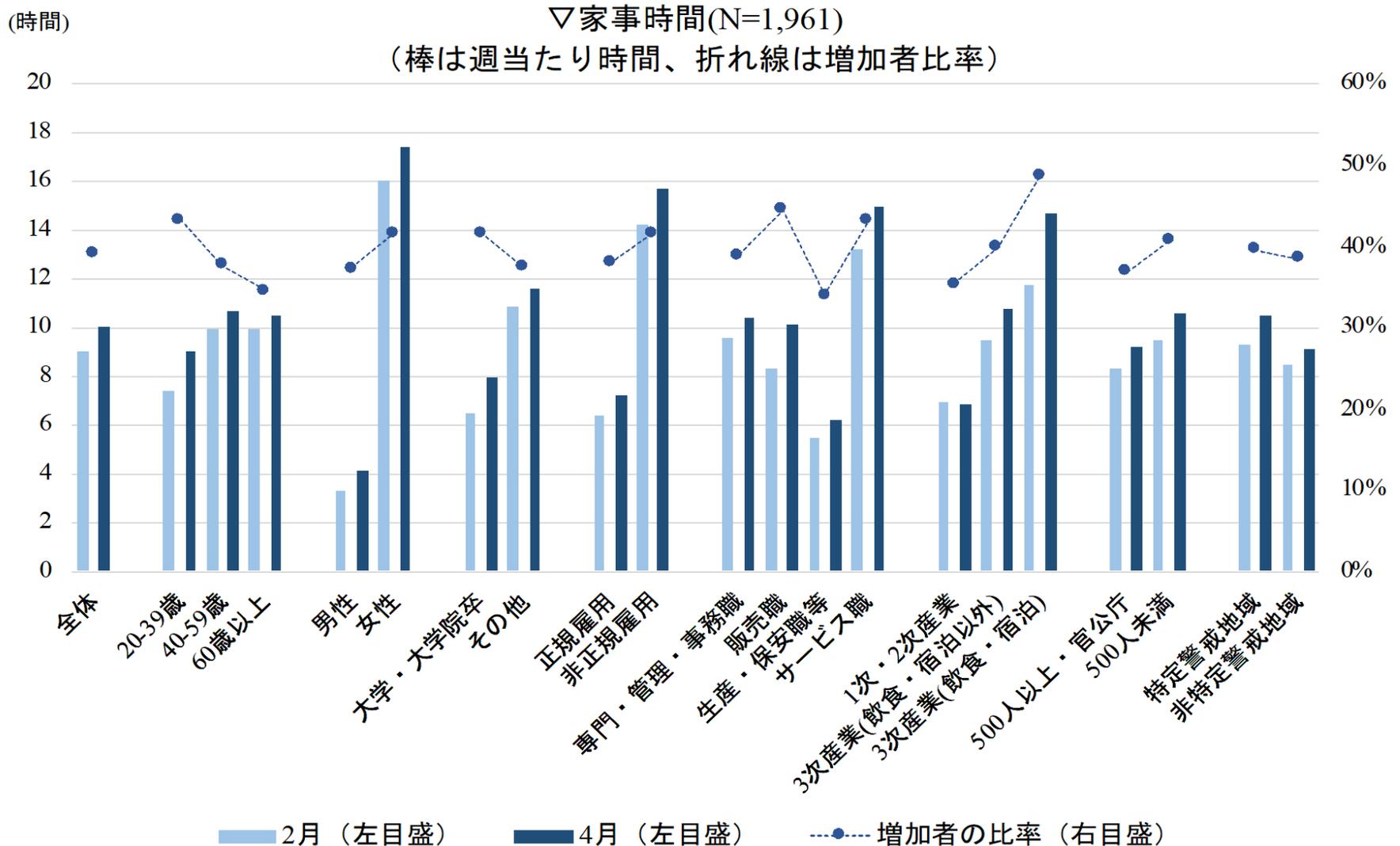
→ 労働時間が減少した人は、特に、50歳代以下、男性、大卒、正規雇用、1・2次産業、大企業、特定警戒地域で多い

▽ 職場勤務と比べた在宅勤務の主観的生産性 (N=1,746)
 (在宅勤務のほうが効率がよいと回答した人の比率)



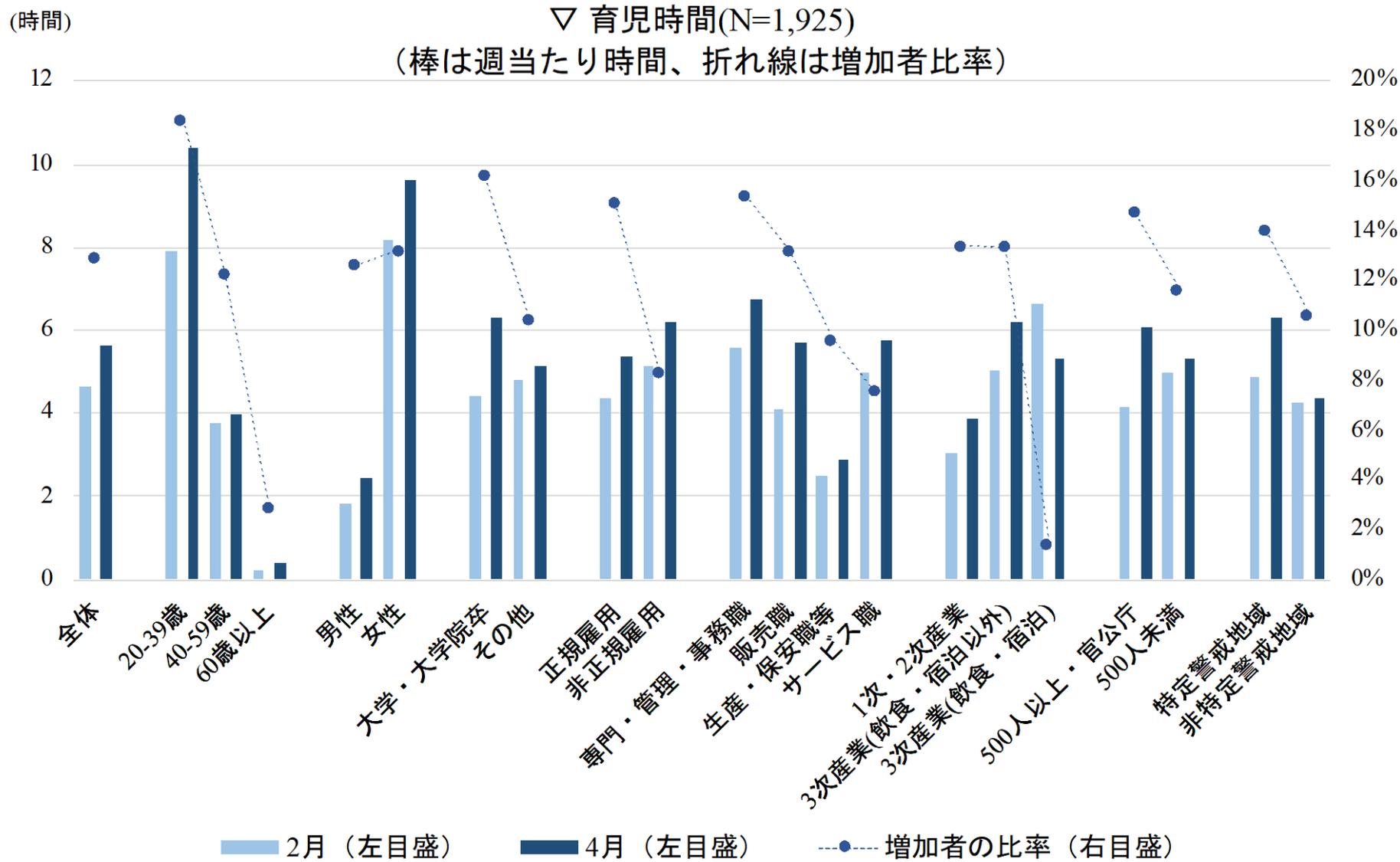
- 在宅勤務のほうが効率がよいと回答した人は1割強程度 (効率がよくないと回答した人は4割程度)
 → 効率がよいと回答した人は、20・30歳代、男性、大卒、正規雇用、専門・管理・事務職、販売職、大企業、特定警戒地域で多い

(2) 生活時間への影響



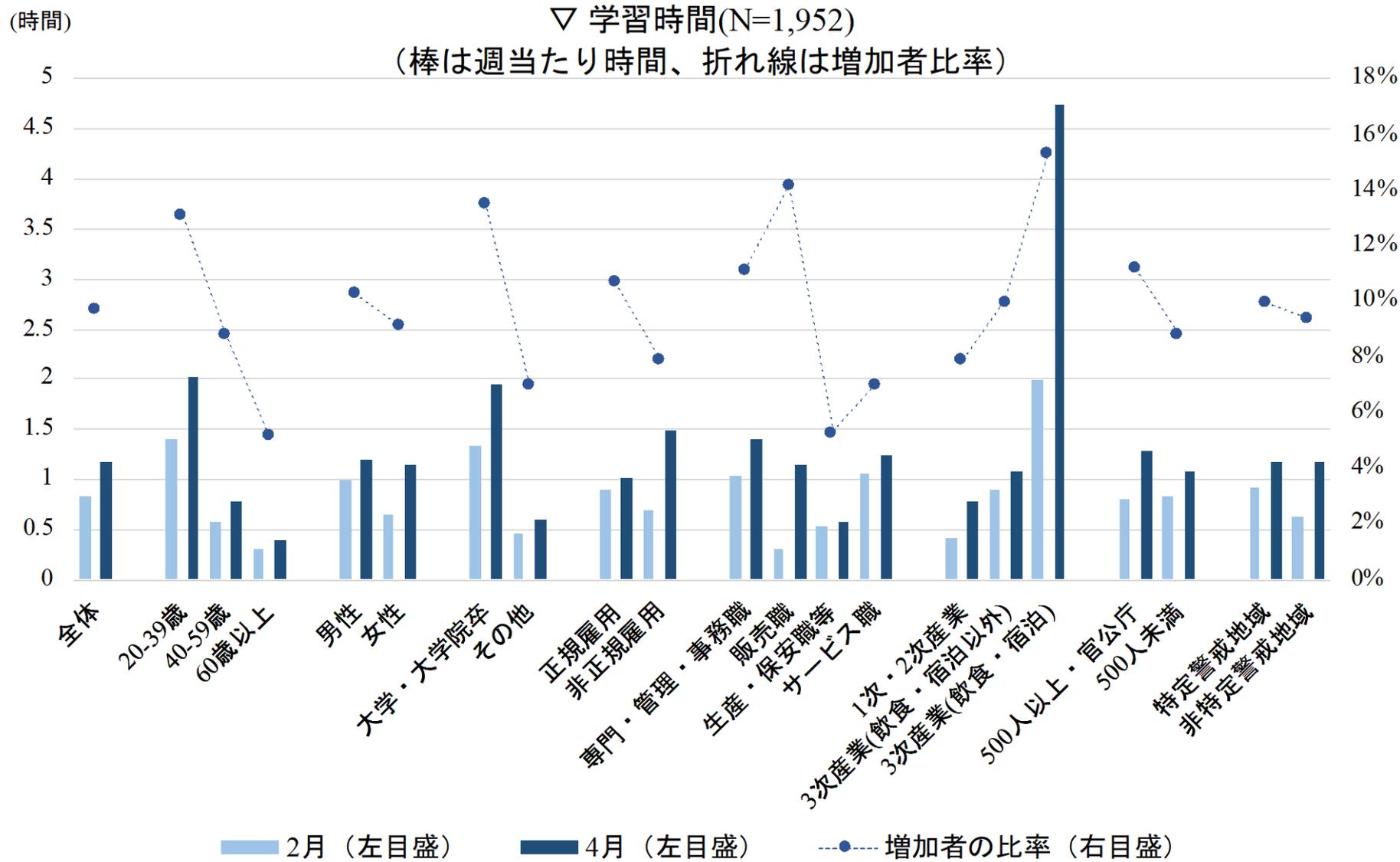
→ 家事時間は週1時間程度増加

→ 増加した人は、20・30歳代、女性、大卒、非正規雇用、販売職、サービス職、飲食・宿泊業が多い



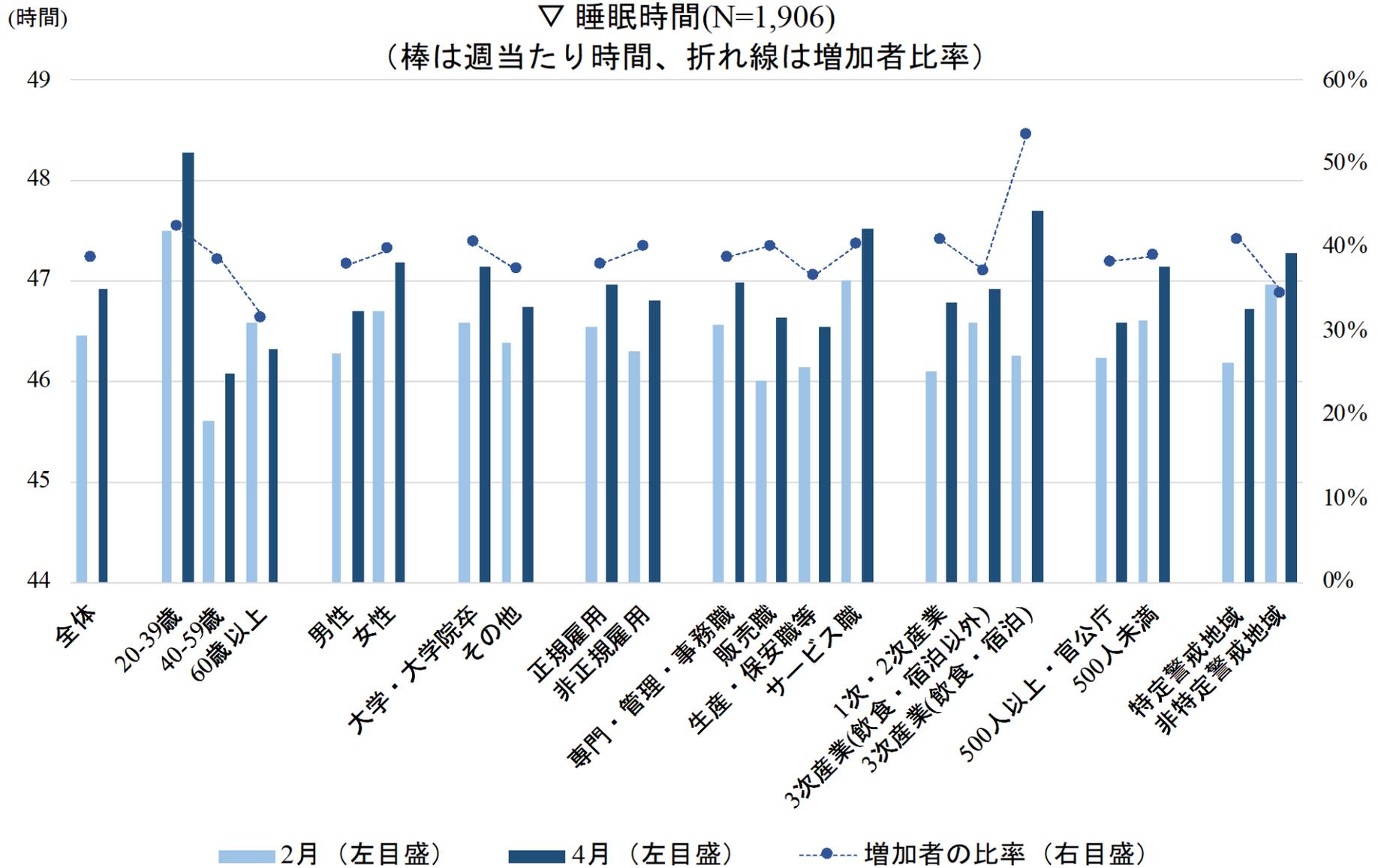
→ 育児時間は週1時間程度増加

→ 増加した人は、大卒、正規雇用、専門・管理・事務職、販売職、大企業、特定警戒地域が多い



→ 学習時間は週0.34時間程度 (20分程度) 増加

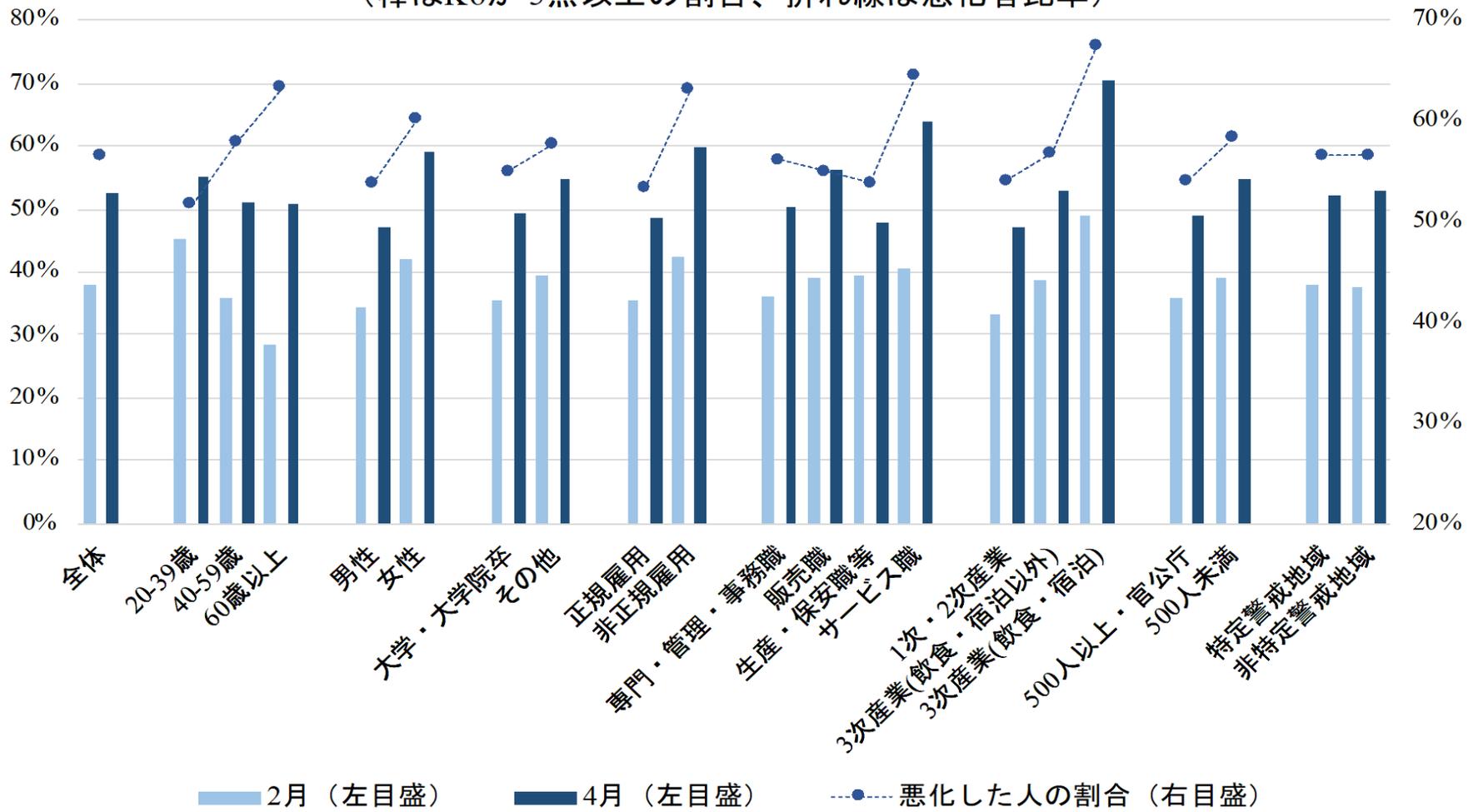
→ 増加した人は、20・30歳代、大卒、正規雇用、専門・管理・事務職、販売職、飲食・宿泊業が多い



→ 睡眠時間は週0.5時間程度 (30分程度) 増加
 → 増加した人は、20・30歳代、女性、大卒、正規雇用、飲食・宿泊業が多い

(3) ウェルビーイングへの影響

▽ メンタルヘルス指標 (N=1,997)
 (棒はK6が5点以上の割合、折れ線は悪化者比率)

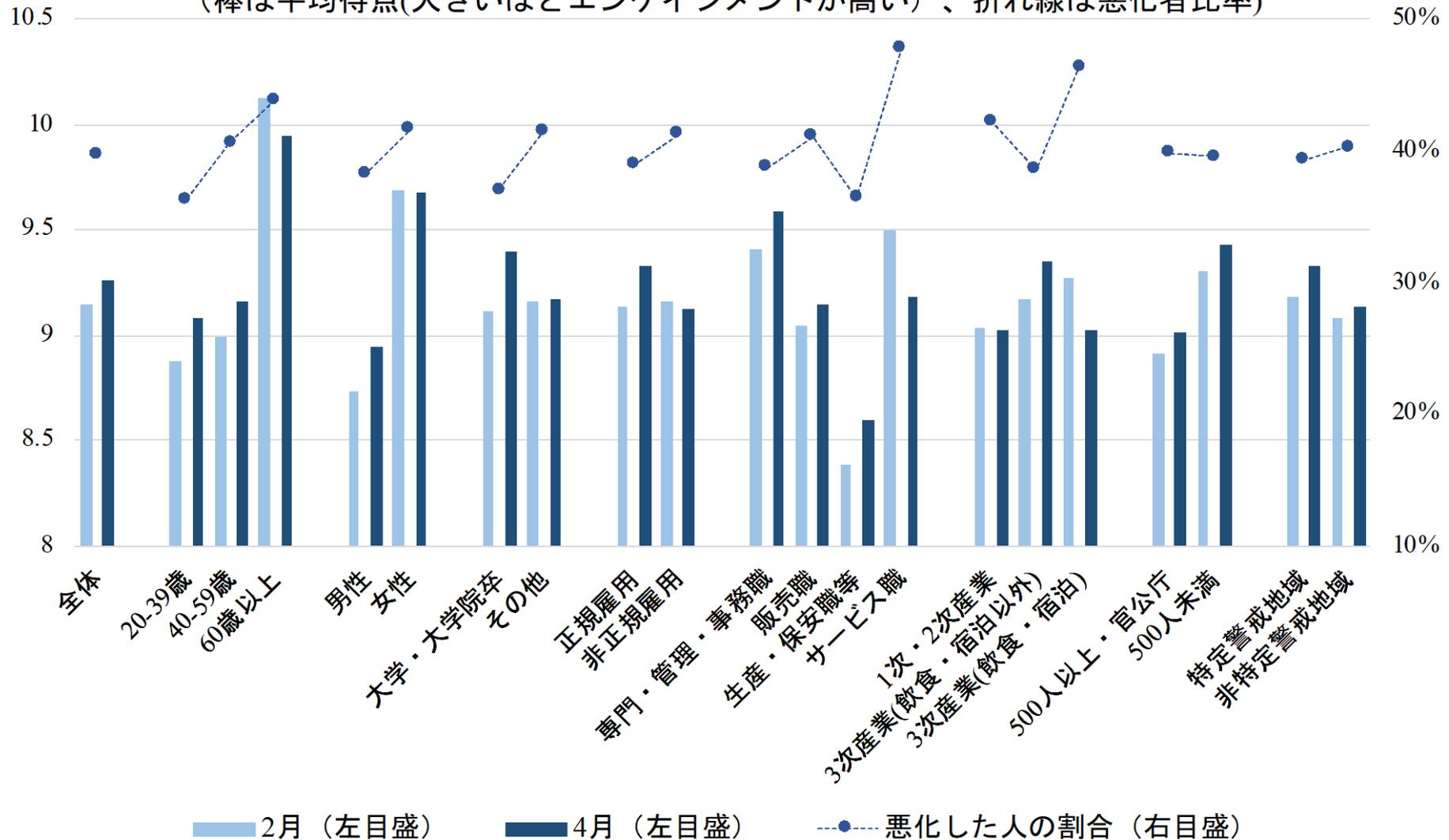


→ K6で何らかの問題があると判断される5点以上の人は14%上昇し、50%を超えた

→ メンタルヘルスが悪化した人は、60歳以上、女性、大卒以外、非正規雇用、サービス職、飲食・宿泊業、中小企業が多い

▽ワークエンゲイジメントUWES3 (N=1,765)

(棒は平均得点(大きいほどエンゲイジメントが高い)、折れ線は悪化者比率)

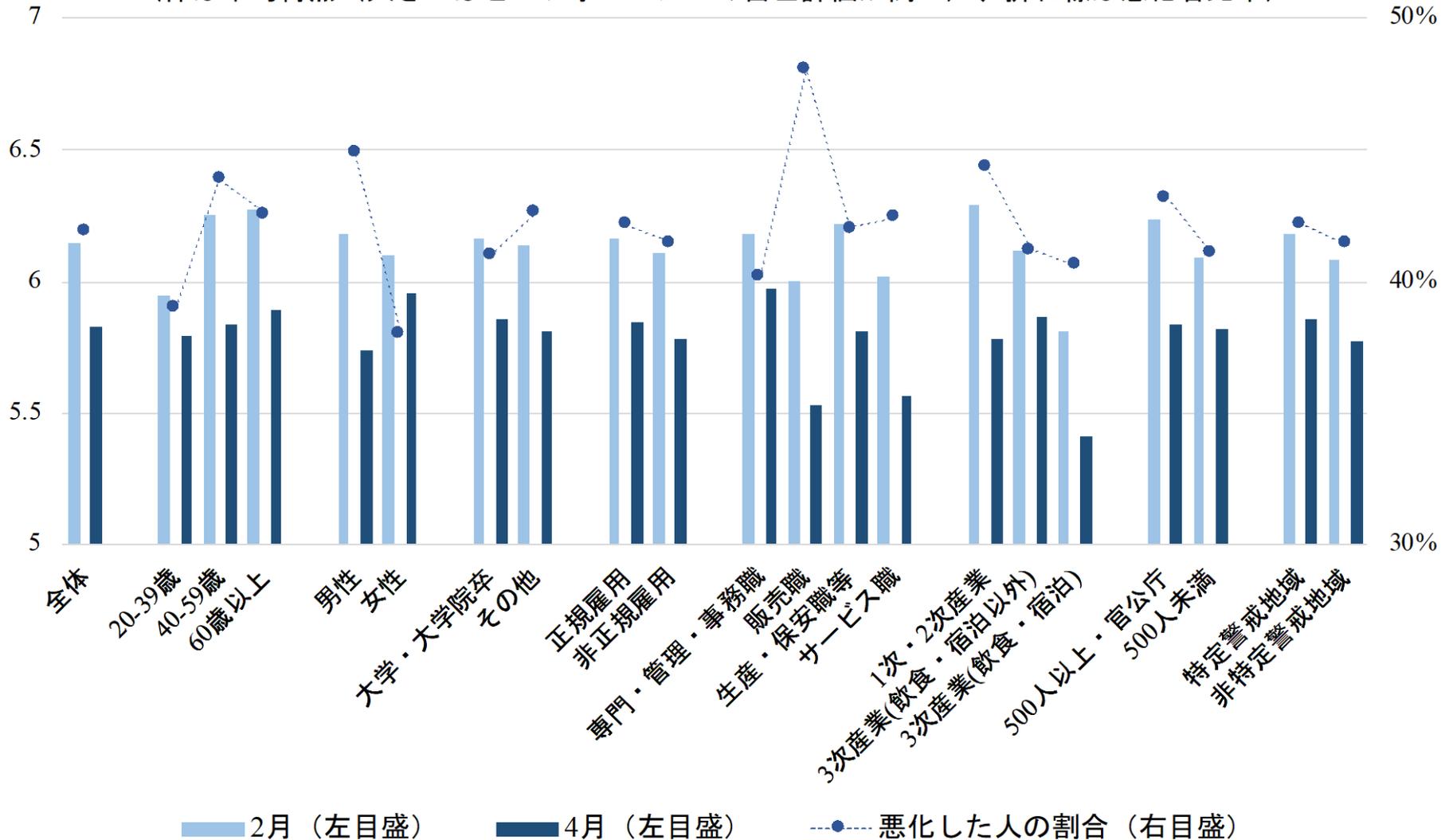


→ ワークエンゲイジメント (熱意・没頭・活力) は上昇傾向

→ 悪化した人は、60歳以上、女性、大卒以外、非正規雇用、サービス職、飲食・宿泊業が多い

▽主観的生産性HPQ (N=1,764)

(棒は平均得点 (大きいほどパフォーマンスの自己評価が高い)、折れ線は悪化者比率)

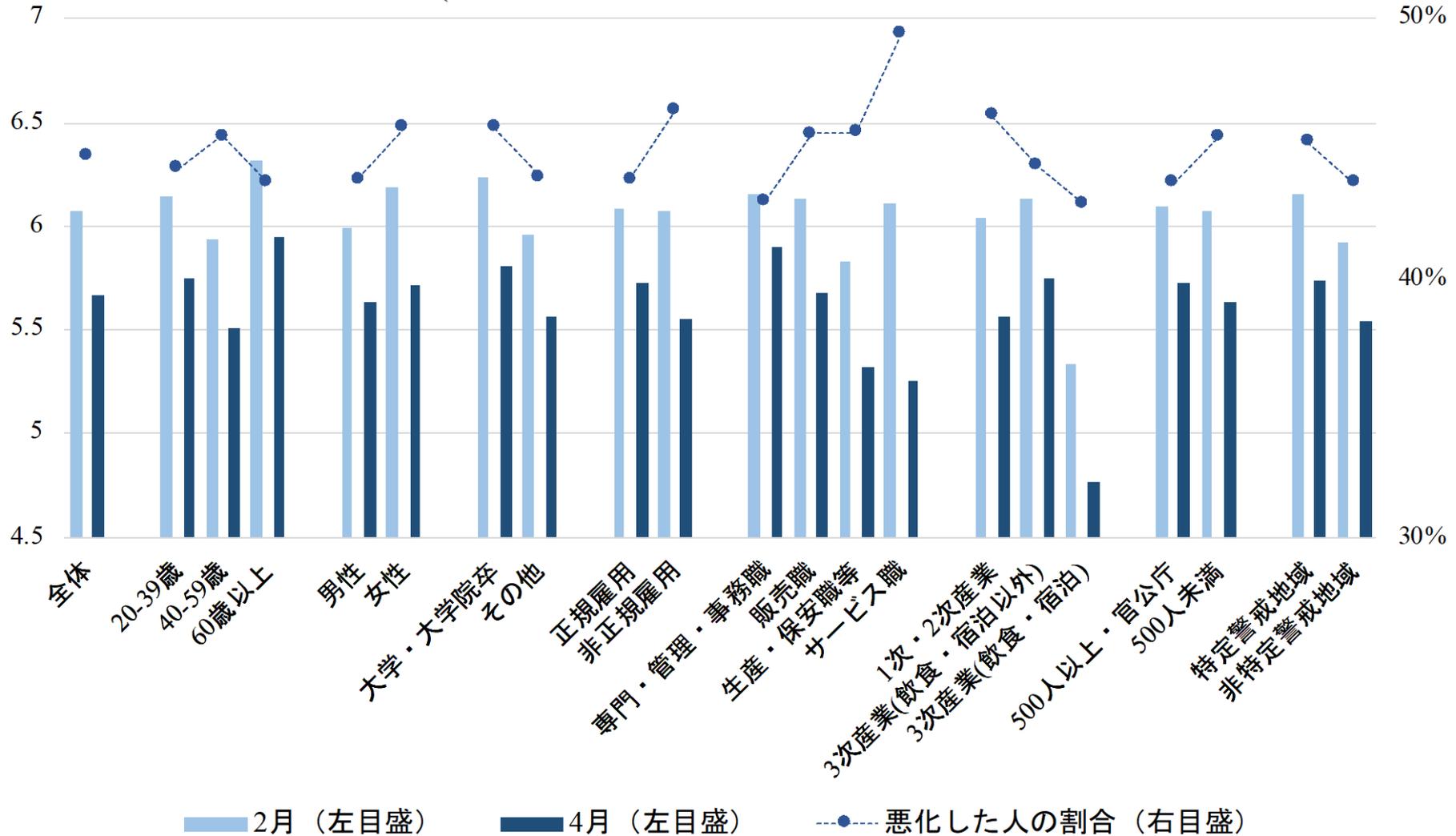


→ 主観的生産性は低下傾向

→ 低下した人は、40・50歳代、男性、大卒以外、販売職、1・2次産業、大企業で多い

▽最近1週間の幸福感 (N=1,815)

(棒は平均得点(大きいほど幸福感が高い)、折れ線は悪化者比率)



→ 幸福感は低下傾向

→ 低下した人は、40・50歳代、女性、大卒、サービス職、1・2次産業、中小企業、特定警戒地域が多い

4. 暫定結果②

(1) 男女間格差の要因分解：Blinder-Oaxaca分解

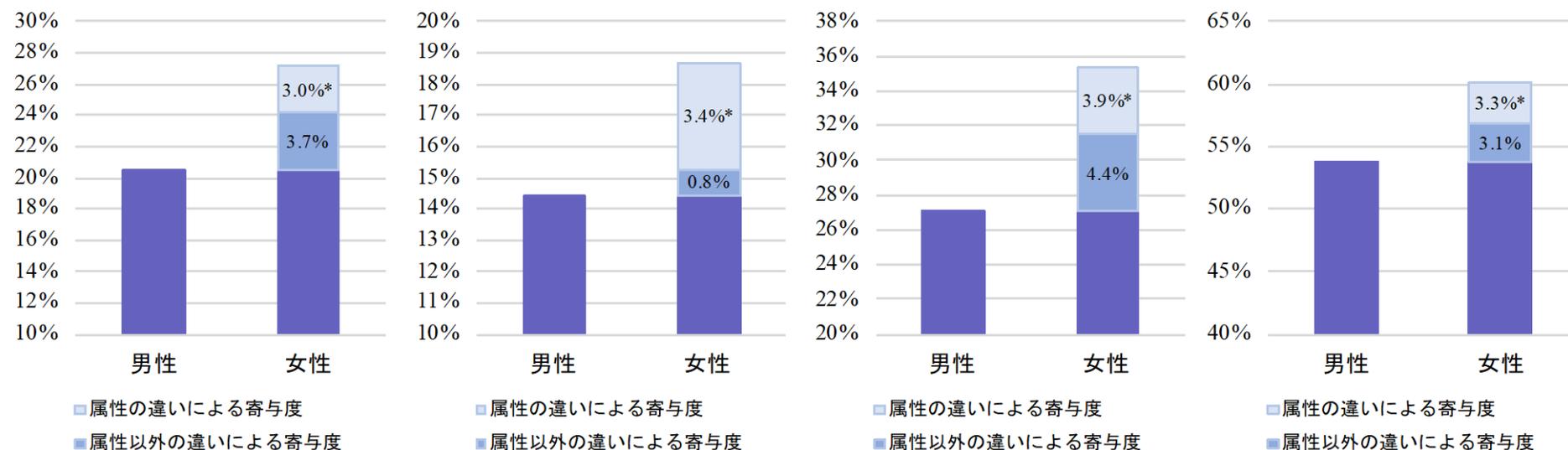
※ 属性：年齢層・学歴・職種・業種・企業規模

コロナによる休職
1日以上の割合

転職希望
増加者の割合

仕事収入
の減少者の割合

メンタルヘルス (K6)
悪化者の割合



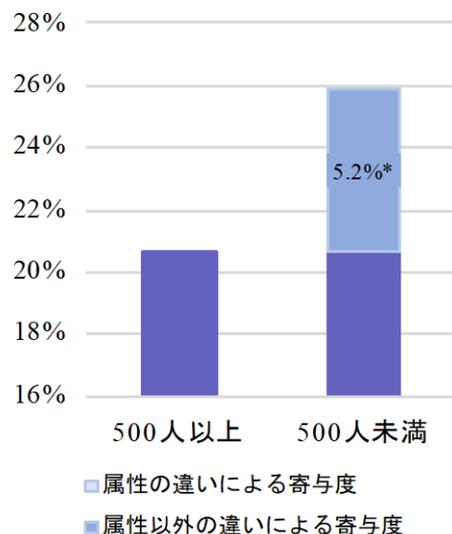
(*印は10%水準で統計的に有意)

→ 休職、転職希望、仕事収入の減少、メンタルヘルスの悪化がみられる人は女性が多いが、非正規雇用やサービス職に女性が多いことによって生じている部分（属性の違いによる寄与度）もある一方で、それ以外による部分（属性以外の違いによる寄与度）も相応にある ※ 属性以外による男女差が存在

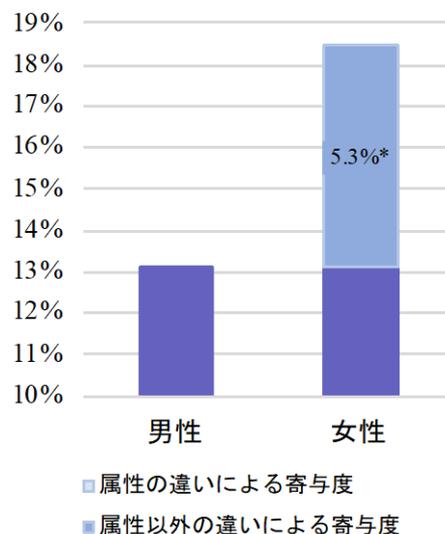
(2) 企業規模間格差の要因分解：Blinder-Oaxaca分解

※ 属性：性別・年齢層・学歴・職種・業種

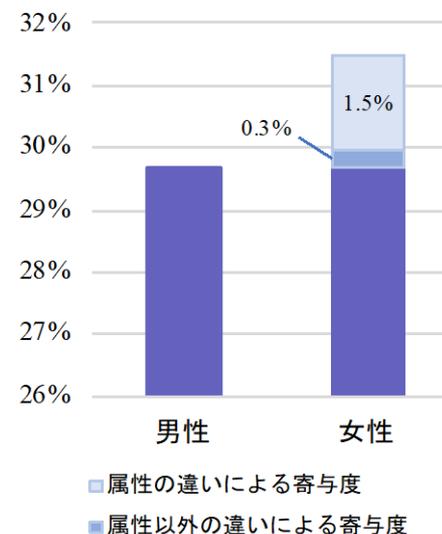
コロナによる休職
1日以上の割合



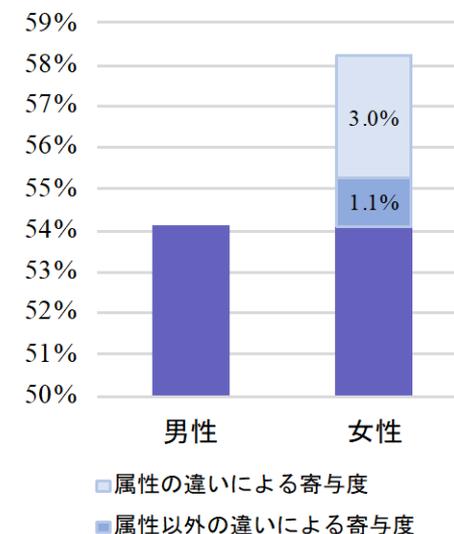
転職希望
増加者の割合



仕事収入
の減少者の割合



メンタルヘルス (K6)
悪化者の割合



(*印は10%水準で統計的に有意)

→ 休職、転職希望、メンタルヘルスの悪化がみられる人は500人未満の企業で働く人で顕著であるが、飲食・宿泊業やサービス職で500人未満の企業が多いことによって生じている部分（属性の違いによる寄与度）もある一方で、それ以外による部分（属性以外の違いによる寄与度）も相応にある

※ 属性以外による企業規模間の差が存在

→ 仕事収入の減少が500人未満企業で多いことについては、属性の違いによってほとんど説明可能